

スキューバダイビングの普及と人口増加

The way to increase Scuba Divers in JAPAN

1K10C437

主査 武藤泰明 先生

森田 浩平

副査 松岡宏高 先生

【研究動機・目的】

スキューバダイビングは、レジャースポーツであり、生涯スポーツである。ライセンス区分や年齢や体力差などによって制限もあるが、誰もが楽しめるスポーツとして営まれてきた。私は大学に入学してからスキューバダイビングを始めたが、4年間のスキューバダイビング歴の中で、年齢・性別・国籍・職業の異なる多くの人と会ってきた。

趣味としてスキューバダイビングを行っている中で、私は次第にもっとスキューバダイビングを普及させ、人口を増加させるには何が必要であるか、スキューバダイビングの現状や抱えている問題は何であるのか、などと疑問を抱くようになってきた。また、人はダイバーになるまでのどのようなステップや過程を踏むのか、などにも興味を持つようになった。このような疑問や興味を解決して、スキューバダイビングの普及と人口増加を目指すために本研究を進め、これを研究動機・目的とする。

【方法・構成】

本研究の調査方法は、文献研究と聞き取り調査を中心に行っていく。

本研究では以下のように、テーマについて論じていく。まず第1章では、スキューバダイビングの定義や歴史や指導団体などの、スキューバダイビングを研究する際に知っておくべき前提や情報について紹介していく。

第2章では、スキューバダイビング業界の現状を分析して、スキューバダイビングの普及と人口増加を阻む問題を明らかにする。また、スキューバダイビングのライセンス取得までのステップや、ダイバーになるまでの過程を考える。

第3章では、第2章で浮かび上がった現在のスキューバダイビング業界が抱える問題の解決策を考え、事例を紹介しながら、スキューバダイビングの普及・人口増加について考えていく。

第4章では、本研究の全体をまとめながら、結論を導きだし、考察を加える。

【結果】

本研究では以下のような結論を得た。

- ・ スキューバダイビングに興味や関心を抱き、始める

きっかけとなるものは、「体験ダイビング」・「友人・知人の紹介や誘い」・「海外や南国に行く」の3つであり、これらが大きな理由としてある。また、海やマリンスポーツに興味や関心があり、好意を抱いている人は、直接ライセンス取得に結びつくこともある。

- ・ 現在、スキューバダイビングのライセンス保有者は、全国に155万人いる。そのうち、継続的に活動しているダイバーは65万人である。一方で、ライセンスを取得しているがスキューバダイビング非活動者となっているものは、90万人もいる。よって、日本の全ダイバーのうち約42%しか、実質的な活動していない。
- ・ スキューバダイビング人口を増加させるには、スキューバダイビングに興味や関心を持つきっかけに多く触れることが重要である。また、スキューバダイビング未経験者に、ダイビングについて正しく理解してもらい、マイナスイメージや誤解を払拭する必要がある。
- ・ ライセンス取得においては、「お金がない」と「時間がない・あわない」という2つのことが問題になっている。
- ・ スキューバダイビング非活動者から活動者への移行を促すには、下記の5つの問題を解決する必要がある。
 - 1.価格・費用の問題
 - 2.一緒に活動するメンバー（一緒に行く人）がいない問題
 - 3.他の娯楽に台頭・ダイビングの価値低下
 - 4.長期的な休み・時間が取れない問題
- ・ ライセンス取得時に抱えている問題と、ダイバーになってから抱える問題は類似している。

【考察】

今日にいたるまで、スキューバダイビングが学問として取り扱われることは、非常に少なかった。そんな中、本研究内でダイバーになるまでの過程を解明して、まとめることができたのは、新たな発見であり、本研究の成果といってよい。